

にいがたフォーラム11 in 長岡

出張報告 中村 修一

11月27日28日29日と、新潟県長岡市で行われた「にいがたフォーラム11 in 長岡」に行かせていただきました。

フォーラムの主催は新潟県地域生活支援ネットワーク・NPO 法人全国地域生活支援ネットワーク・社会福祉法人中越福祉会が行っており、地域生活支援ネットワークは、障がいのある方もごく当たり前のよう地域生活を送れるように、当事者や事業者・行政・政治などの関係者の横のつながりを深め、地域福祉に係る情報収集その情報の公開や発信、調査研修等を基に政策提言等を行っておりエネルギーあふれる団体です。

内地への出張研修は約3年ぶりになります。人生で初めて行く新潟県です。

生憎出発する日はとても天候が悪くしかも小型ジェット機と言うのか、通路を挟んで2列の座席の小さな飛行機。これでこの強風の中を飛べるのかとドキドキしながら乗りました。



フォーラムは、予想通り大変熱い内容になっており、北は北海道南は九州と全国から300以上の参加があったようです。

プログラム1日目は9:30からスタートして夜の22:00まで、2日目は9:00から13:00までと、鼎談・シンポジウムやセッションが繰り返し行われました。



沢山あったプログラムの中から今回は「これからの障害福祉のカタチ」と「地域生活支援拠点の機能を考える」について、少し触れさせていただきたいと思います。

「これからの障害福祉のカタチ」

今現在、障がい児者のサービスを行う機関は社会福祉法人だけではなく、NPO法人・株式会社の参入など、事業者数は増え、国の障害福祉サービス関係予算が平成18年4,893億円から平成27年で

は 10,849 億円と、この 10 年で 2 倍以上に増えている。全体の社会保障費からすると多い少ないとの議論は別として、限られた財源の中で、優先度や必要性がより厳しく見られてくる時代になっている。その中で社会福祉法人としての役割をどのように個性を持って一般地域社会に貢献していけるような事業を行っていくのかが問われていることがよくわかりました。

「地域生活支援拠点の機能を考える」

正直、今でも???まだまだ自分は、よくわかっていません。行政からの説明の文では・・・

地域における居住支援のための機能強化

障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、各地域の抱える課題に応じて、居住支援のための機能（相談、体験の機会・場、緊急時の受け入れ・対応、専門性、地域の体制づくり）を地域に整備していく手法としては、①これらの機能を集約して整備する「多機能拠点整備型」（グループホーム併設型、単独型）、②地域において機能を分担して担う「面的整備型」等が考えられる。

私たち法人が行っているグループホームやグループホームを支える地域支援事業所（法人独自事業）もこの地域生活支援拠点にあたるようで、障がいのある方の地域での生活を末永くささえる仕組みの一つとなります。

現在宅で生活している方が安心して在宅生活を送れるようにサポート・サービス（レスパイト等々も）を行う、在宅での生活が厳しくなった時にも地域で暮らせるような相談・ケースワークやハード面も含めた整備との 2 つの意味合いがあるのだと個人的には思っていました。



20:00 から始まった、
新潟での応用行動分析の実践発表
一杯の後にもかかわらず
沢山の方が参加されていました。



新潟名物？長岡市名物？
B 級グルメの洋風カツ丼